Nipponham Group
人輝く、食の未来

決算説明資料

～2020年3月期　第3四半期～

決算開示日
2020年1月31日（金）
日本ハム株式会社

目　次

Ⅰ．2020年3月期　第3四半期連結業績の総括

Ⅱ．2020年3月期　見通し

Ⅲ．2020年3月期　第3四半期財務データ

※当社は2019年3月期より国際会計基準（IFRS）を適用しています。
2018年3月期以前の数値につきましては、すべて遡及修正しております。

※当社グループは、事業活動を通じて獲得する利益をより明確に示すことを目的として、2020年３月期の連結業績予想から従来の営業利益に替えて、事業利益（売上高から売上原価、販売費及び一般管理費を控除し、当社グループが定める為替差損益、IFRSへの調整及び非経常項目を調整して算出）を開示致しております。

Ⅰ．2020年3月期　第3四半期連結業績の総括

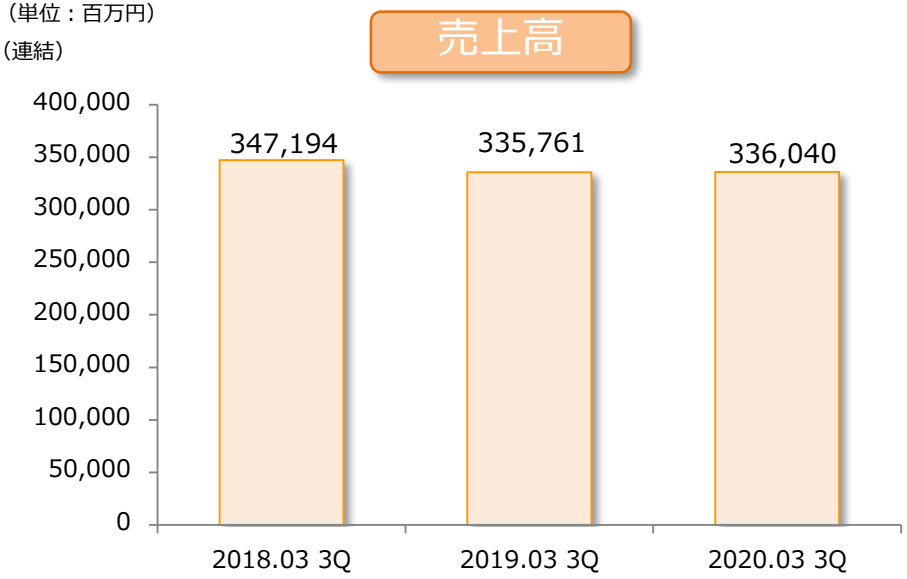
1. セグメント情報　第3四半期
2. セグメント情報　第3四半期累計
3. セグメント情報　加工事業本部
4. セグメント情報　食肉事業本部
5. セグメント情報　関連企業本部
6. セグメント情報　海外事業本部
7. 海外　主要所在地別　外部顧客売上高実績

1. セグメント情報　第3四半期

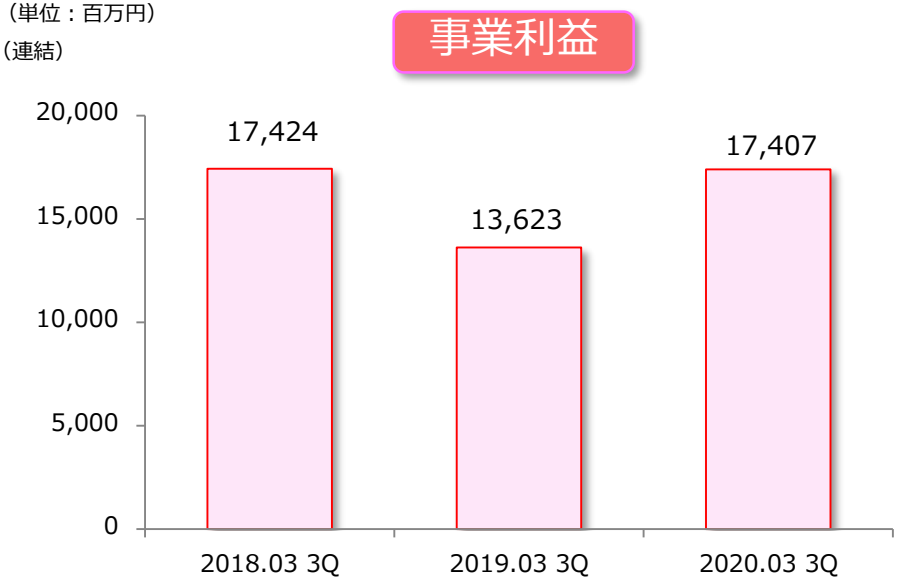
（単位：百万円）

		2018.03.3Q	2019.03.3Q	**2020.03.3Q**	前年差	前年比（%）
加工事業本部	売上高	102,196	98,583	**99,093**	510	0.5
	事業利益	4,545	5,113	**5,993**	880	17.2
食肉事業本部	売上高	211,682	204,127	**207,387**	3,260	1.6
	事業利益	13,206	10,451	**10,478**	27	0.3
関連企業本部	売上高	48,513	45,754	**42,514**	△ 3,240	△ 7.1
	事業利益	1,292	875	**1,122**	247	28.2
海外事業本部	売上高	66,786	65,802	**66,207**	405	0.6
	事業利益	△ 1,672	△ 1,103	**1,146**	2,249	-
消去調整他	売上高	△ 81,983	△ 78,505	**△ 79,161**	△ 656	-
	事業利益	53	△ 1,713	**△ 1,332**	381	-
連結合計	売上高	347,194	335,761	**336,040**	279	0.1
	事業利益	17,424	13,623	**17,407**	3,784	27.8

（単位：百万円）
（連結）



（単位：百万円）
（連結）

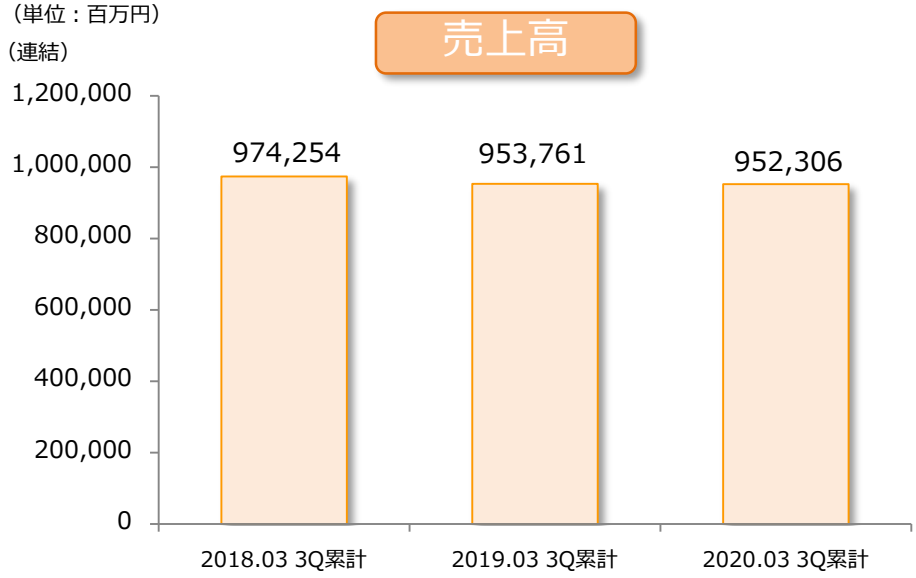


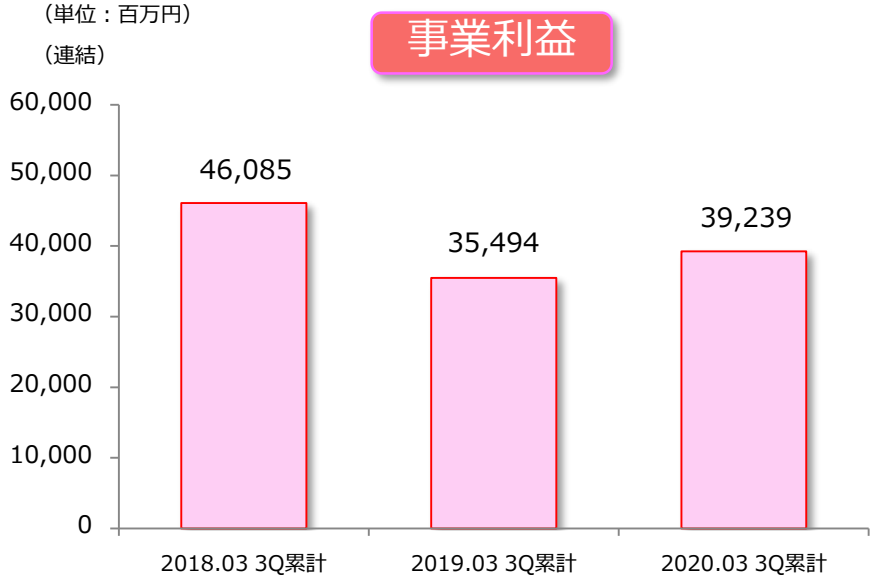
※各セグメントの売上高はセグメント間の内部売上高が含まれています。

2. セグメント情報　第3四半期累計

（単位：百万円）

		2018.03.3Q累計	2019.03.3Q累計	**2020.03.3Q累計**	前年差	前年比（%）
加工事業本部	売上高	274,709	273,046	**272,186**	△ 860	△ 0.3
	事業利益	7,432	7,866	**10,559**	2,693	34.2
食肉事業本部	売上高	601,279	583,262	**594,874**	11,612	2.0
	事業利益	38,711	28,703	**25,168**	△ 3,535	△ 12.3
関連企業本部	売上高	128,438	121,706	**112,135**	△ 9,571	△ 7.9
	事業利益	2,456	1,068	**1,356**	288	27.0
海外事業本部	売上高	193,894	197,459	**197,975**	516	0.3
	事業利益	△ 3,033	△ 1,958	**3,048**	5,006	-
消去調整他	売上高	△ 224,066	△ 221,712	**△ 224,864**	△ 3,152	-
	事業利益	519	△ 185	**△ 892**	△ 707	-
連結合計	売上高	974,254	953,761	**952,306**	△ 1,455	△ 0.2
	事業利益	46,085	35,494	**39,239**	3,745	10.6



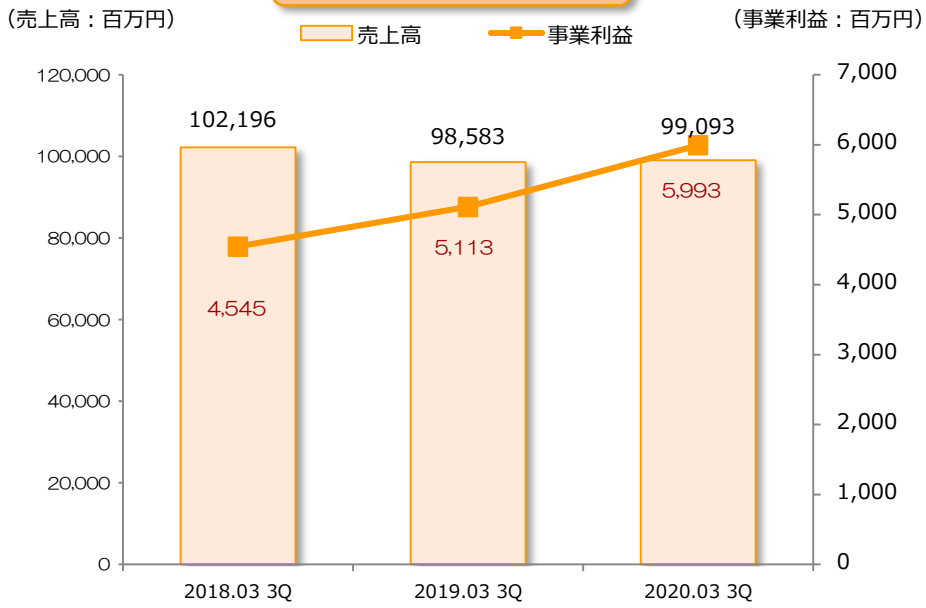


※各セグメントの売上高はセグメント間の内部売上高が含まれています。

3. セグメント情報　加工事業本部①

Nipponham Group
人輝く、食の未来

第3四半期実績



（単位：百万円）

	2019.03.3Q	2020.03.3Q	前年差	前年比(%)
売上高計	98,583	99,093	510	0.5
事業利益	5,113	5,993	880	17.2
事業利益率	5.2%	6.0%	-	-

【第3四半期累計売上高の状況】

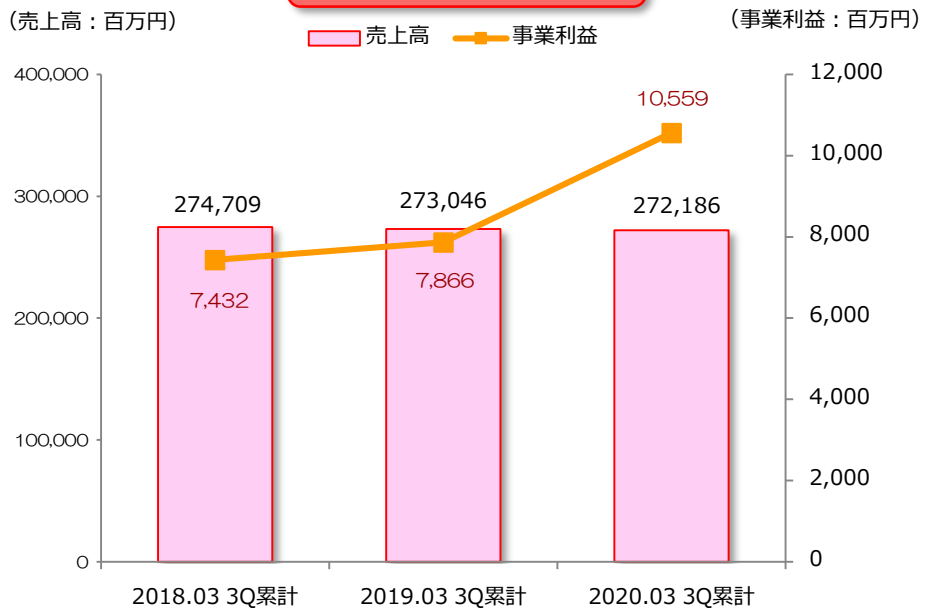
既存事業（ハム・ソーセージ、デリ商品）

「シャウエッセン」や「ピザ群」への新商品投入等によりコンシューマ商品は伸長したものの、業務用デリ商品が苦戦し、減収となった。

ベンダー、市販冷食、物流事業

物流事業における新規顧客の取り込みや、ベンダー事業における新商品投入により増収となった。

第3四半期累計実績



（単位：百万円）

	2019.03.3Q累計	2020.03.3Q累計	前年差	前年比(%)
売上高計	273,046	272,186	△ 860	△ 0.3
事業利益	7,866	10,559	2,693	34.2
事業利益率	2.9%	3.9%	-	-

【第3四半期累計事業利益の状況】

既存事業（ハム・ソーセージ、デリ商品）

主力ブランド商品の伸長による単価上昇で粗利益率が改善したことに加え、間接経費の削減や製造部門における機械化、省人化の取り組みなどにより増益となった。

ベンダー、市販冷食、物流事業

市販冷食はPB商品の減少により苦戦したが、物流事業における新規顧客の取り込みとベンダー事業の好調により増益となった。

3. セグメント情報　加工事業本部②

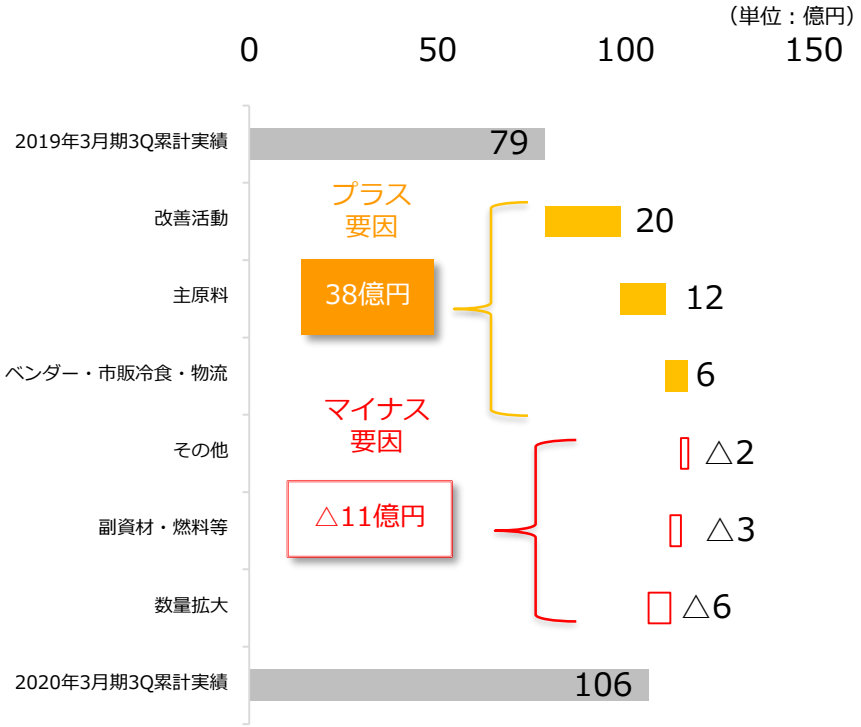
Nipponham Group
人輝く、食の未来

【事業利益増減要因分析】

	2020.03期				
	上期 実績	3Q 実績	3Q累計 見込み	3Q累計 実績	計画 差異
既存事業	15億円	8億円	15億円	23億円	8億円
外部要因	7億円	2億円	2億円	9億円	8億円
（内訳）主原料価格	11億円	1億円	8億円	12億円	4億円
（内訳）副資材・燃料等	△ 3億円	1億円	△ 7億円	△ 3億円	4億円
内部要因	8億円	6億円	13億円	14億円	1億円
（内訳）数量拡大	△ 5億円	△ 1億円	△ 7億円	△ 6億円	2億円
（内訳）改善活動	13億円	7億円	21億円	20億円	△ 1億円
ベンダー、市販冷食、物流	4億円	2億円	4億円	6億円	2億円
その他	△ 1億円	△ 1億円	△ 3億円	△ 2億円	1億円
合計	18億円	9億円	16億円	27億円	11億円

※四捨五入表記のため、数値の和・差と合計が一致しない場合があります。

【第3四半期累計事業利益実績の増減要因グラフ】



●計画差異要因分析（第3四半期累計）

【主原料・副資材】　主原料の一部・副資材価格が想定を下回ったことや購買方法の見直し等の改善により、計画を上回った。

【数量拡大】　コンシューマブランド商品が計画以上に伸長し、計画を上回った。

【改善活動】　粗利益は利益率の高い商品の伸長に伴い計画を上回ったが、経費は物流費等の上昇により計画を下回った。

【ﾍﾞﾝﾀﾞｰ･冷食･物流】　物流事業における新規顧客の取り込みや、ベンダー事業における新商品投入で計画を上回った。

3. セグメント情報　加工事業本部③

Nipponham Group
人輝く、食の未来

●チャネル別売上実績

【（参考）2020年3月期3Q累計 チャネル別伸び率（対前年同期比）】

①コンシューマ
・ハム・ソーセージは「シャウエッセンホットチリ」「シャウエッセンチェダー＆カマンベール」の発売により新たな購買層を獲得したことに加え、ロースハムPB商品が好調で前年を上回った。
・デリ商品はチルド惣菜が苦戦したものの、ハンバーグ・ミートボール群、チルドベーカリー群が好調で金額では前年を上回った。
②業務用
・惣菜・中食チェーンの売上が減少し、ハム・ソーセージ、デリ商品共に昨年を下回った。

		数量	金額
ハム・ソーセージ	ｺﾝｼｭｰﾏ	102%	102%
	業務用	96%	96%
	合計	100%	100%
デリ商品	ｺﾝｼｭｰﾏ	99%	101%
	業務用	87%	87%
	合計	93%	94%

●主要ブランド売上実績

【（参考）　主要コンシューマ商品群 売上高実績（対前年同期比）】

ハム・ソーセージ	2020.03 実績			デリ商品	2020.03 実績		
	上期	3Q	3Q累計		上期	3Q	3Q累計
ウインナー群	102%	102%	102%	チルドベーカリー群	103%	101%	102%
ロースハム群	109%	111%	110%	チルド惣菜群	97%	96%	97%
ベーコン群	101%	103%	101%	フライドチキン群	100%	100%	100%
焼豚群	91%	90%	91%	ﾊﾝﾊﾞｰｸﾞ・ﾐｰﾄﾎﾞｰﾙ群	101%	115%	106%
コンシューマ商品計	102%	103%	102%	コンシューマ商品計	100%	103%	101%

●ギフト売上実績

・2020年3月期の歳暮商戦は、ハムギフト市場全体とほぼ同等の水準の前年同期比95%での着地となった。

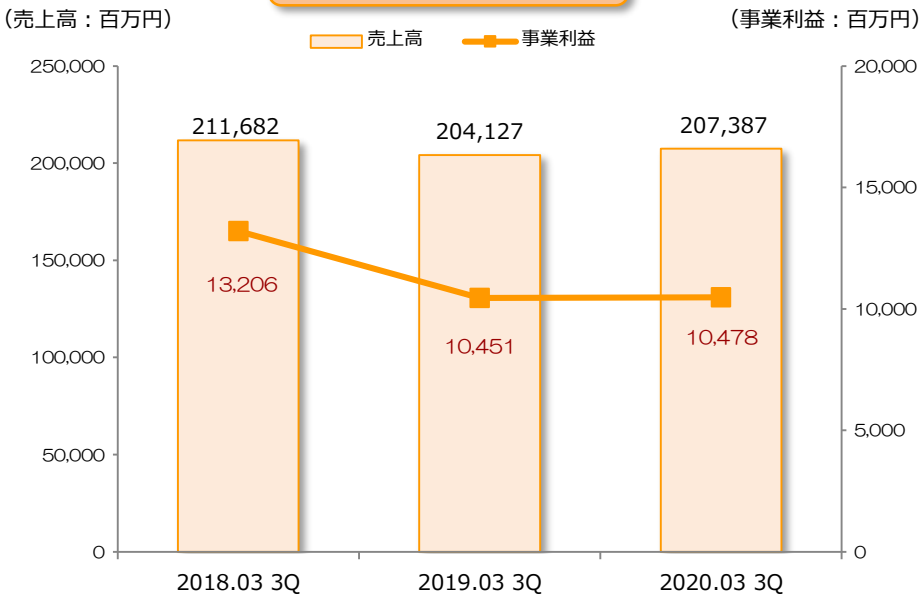
【ギフト販売金額　2020年3月期実績 】

		2020.03 実績
		前年比
中元	全社販売金額	92%
	(うち美ノ国)	101%
歳暮	全社販売金額	95%
	(うち美ノ国)	95%
合計	全社販売金額	94%
	(うち美ノ国)	97%
	(美ノ国構成比)	35%

4. セグメント情報　食肉事業本部①

Nipponham Group
人輝く、食の未来

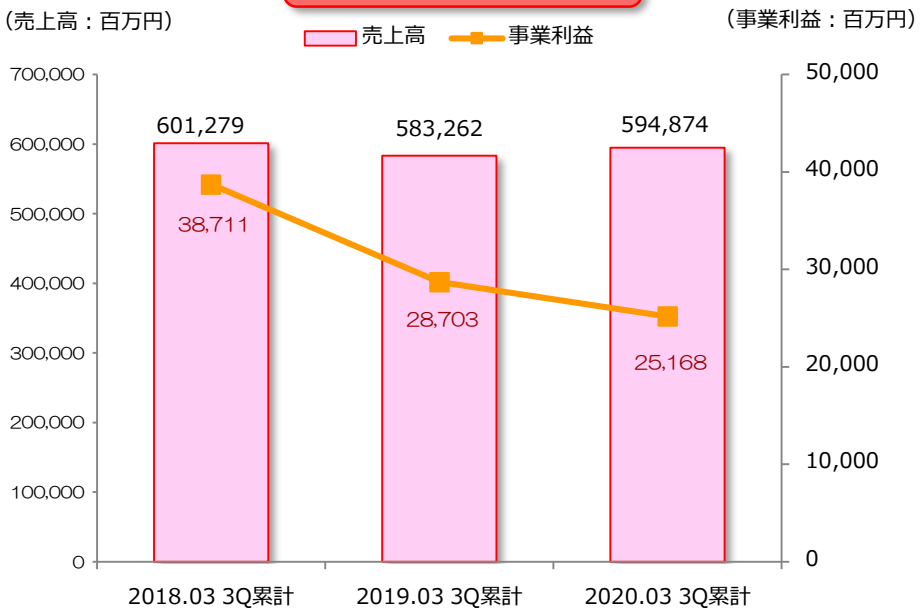
第3四半期実績



（単位：百万円）

	2019.03.3Q	2020.03.3Q	前年差	前年比(%)
売上高計	204,127	207,387	3,260	1.6
事業利益	10,451	10,478	27	0.3
事業利益率	5.1%	5.1%	-	-

第3四半期累計実績



（単位：百万円）

	2019.03.3Q累計	2020.03.3Q累計	前年差	前年比(%)
売上高計	583,262	594,874	11,612	2.0
事業利益	28,703	25,168	△ 3,535	△ 12.3
事業利益率	4.9%	4.2%	-	-

【第３四半期累計売上高の状況】
ブランド食肉の「麦小町」「桜姫」を中心とした販促の実施や、消費者とのコミュニケーション強化のため、SNSを活用したキャンペーンなどを行った。
また、カナダ産・ウルグアイ産の牛肉、抗生物質不使用の豚肉・鶏肉など幅広いチャネルへの提案活動を行ったことで、国産・輸入鶏肉や食肉加工品を中心に数量を伸ばし、増収となった。

【第３四半期累計事業利益の状況】
生産部門では、飼育成績の向上や効率化・省人化に努めたが、人件費の上昇や国産鶏肉の相場が軟調に推移したことで減益となった。
販売部門では、ブランド食肉や付加価値商品の提案強化や、幅広い原産国からの安定調達・提案に努めたが、国産・輸入牛肉の仕入価格の上昇、国内の豚肉・鶏肉の市況下落による販売価格の低迷により減益となった。

4. セグメント情報　食肉事業本部②

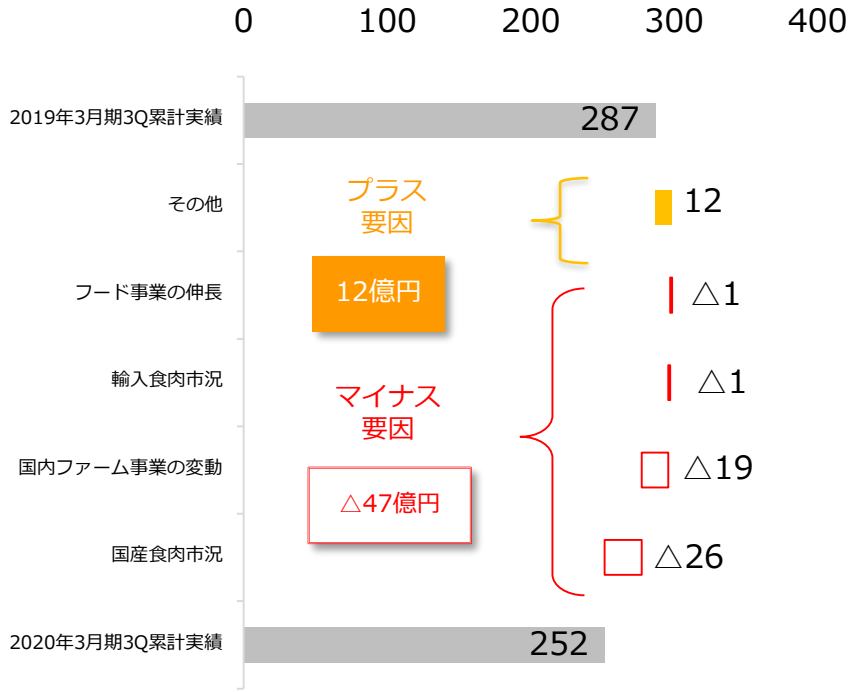
Nipponham Group
人輝く、食の未来

【事業利益増減要因分析】

	2020.03月期				
	上期実績	3Q実績	3Q累計見込み	3Q累計実績	差異
輸入食肉市況	△4億円	**3億円**	△5億円	**△1億円**	4億円
国産食肉市況	△18億円	**△8億円**	△28億円	**△26億円**	2億円
国内ファーム事業の変動	△20億円	**2億円**	△24億円	**△19億円**	5億円
フード事業の伸長	△3億円	**2億円**	△3億円	**△1億円**	2億円
その他	9億円	**3億円**	10億円	**12億円**	2億円
合計	△36億円	**0億円**	△50億円	**△35億円**	15億円

※四捨五入表記のため、数値の和・差と合計が一致しない場合があります。

【第3四半期累計事業利益実績の増減要因グラフ】



●計画差異要因分析（第3四半期累計）

【輸入食肉市況】　輸入鶏肉の国内価格が12月にかけて上昇したことと、年末の荷動きが堅調であったことで計画を上回った。

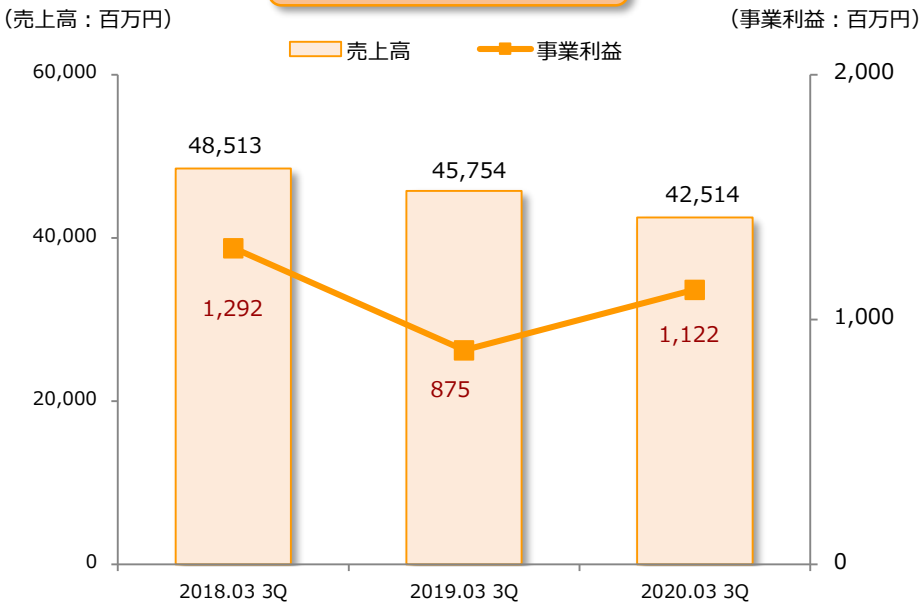
【国産食肉市況】　年末に向けて和牛・ホルス相場が大きく下落した影響で利益率が改善し、計画を上回った。

【国内ファーム事業の変動】　鶏舎の復旧や生産性改善により販売数量を拡大できたこと、鶏肉相場が想定より上振れたことで計画を上回った。

【フード事業の伸長】　外食中心に数量・利益が確保できたこと、物流部門の利益率が想定より改善したことで計画を上回った。

5. セグメント情報　関連企業本部

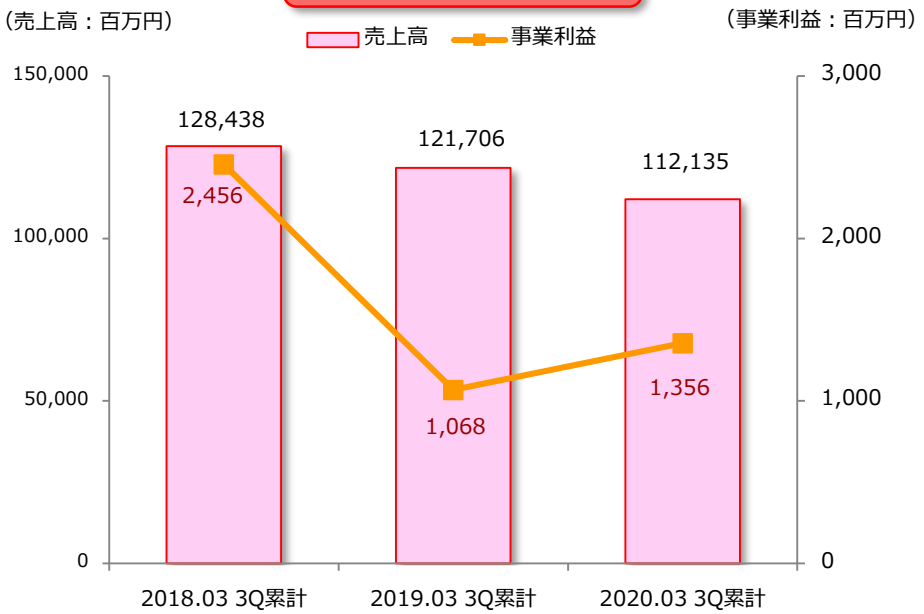
第3四半期実績



（単位：百万円）

	2019.03.3Q	2020.03.3Q	前年差	前年比(%)
売上高計	45,754	42,514	△ 3,240	△ 7.1
事業利益	875	1,122	247	28.2
事業利益率	1.9%	2.6%	-	-

第3四半期累計実績



（単位：百万円）

	2019.03.3Q累計	2020.03.3Q累計	前年差	前年比(%)
売上高計	121,706	112,135	△ 9,571	△ 7.9
事業利益	1,068	1,356	288	27.0
事業利益率	0.9%	1.2%	-	-

【第３四半期累計売上高の状況】

<u>水産事業</u>

主力の鮪や魚卵などの相場下落や、不採算アイテムの整理による影響などもあり、減収となった。

<u>乳製品事業</u>

ヨーグルトは主力のバニラヨーグルトやドリンクタイプヨーグルトが伸長、チーズはCVS向けの業務用商品や市販用スモークチーズなどの販売が伸長し、増収となった。

【第３四半期累計事業利益の状況】

<u>水産事業</u>

主力の海老や蟹などで利益率が改善したことや、高付加価値商品の拡販などにより、増益となった。

<u>乳製品事業</u>

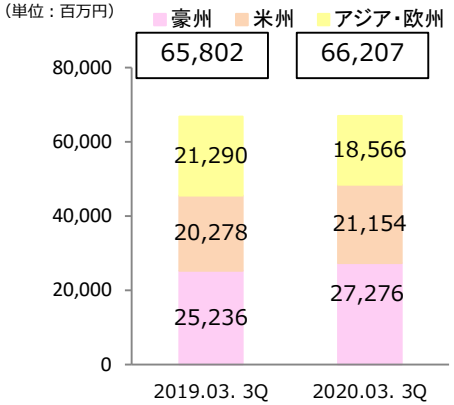
ヨーグルト・チーズ共に、売上増に伴い粗利益が増加した。ヨーグルトを製造する高崎工場本格稼働に伴う生産性改善などもあり、増益となった。

6. セグメント情報　海外事業本部①

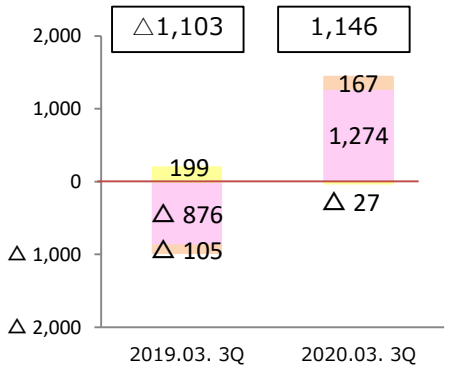
Nipponham Group 人輝く、食の未来

第3四半期実績

〔 売上高 〕



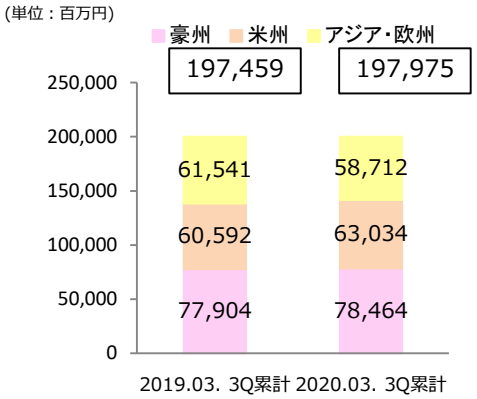
〔 事業利益 〕



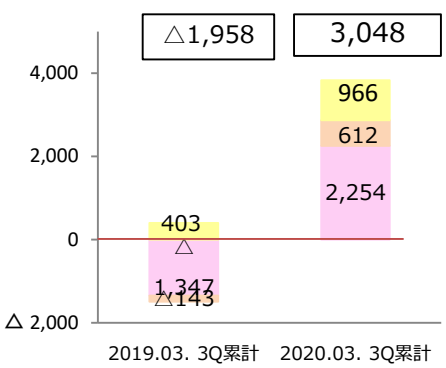
		2019.03 3Q	2020.03 3Q	前年差	前年比(%)
海外計	売上高	65,802	66,207	405	0.6
	事業利益	△ 1,103	1,146	2,249	-
豪州（ウルグアイ含）	売上高	25,236	27,276	2,040	8.1
	事業利益	△ 876	1,274	2,150	-
米州	売上高	20,278	21,154	876	4.3
	事業利益	△ 105	167	272	-
アジア・欧州	売上高	21,290	18,566	△ 2,724	△ 12.8
	事業利益	199	△ 27	△ 226	-

第3四半期累計実績

〔 売上高 〕



〔 事業利益 〕



		2019.03 3Q累計	2020.03 3Q累計	前年差	前年比(%)
海外計	売上高	197,459	197,975	516	0.3
	事業利益	△ 1,958	3,048	5,006	-
豪州（ウルグアイ含）	売上高	77,904	78,464	560	0.7
	事業利益	△ 1,347	2,254	3,601	-
米州	売上高	60,592	63,034	2,442	4.0
	事業利益	△ 143	612	755	-
アジア・欧州	売上高	61,541	58,712	△ 2,829	△ 4.6
	事業利益	403	966	563	-

※売上金額・事業利益は、セグメント間の内部売上高を消去する前の金額です。（セグメント間取引の消去があるため、海外計は各地域の合計とは一致しません）

【第3四半期累計売上高の状況】

豪州・ウルグアイ

生体の集荷が順調だったこと、中国向けの牛肉販売が好調に推移したことにより、増収となった。

米州

北米での加工食品販売や、米国・チリでの原料の輸出が堅調で、増収となった。

アジア・欧州

中国、台湾での加工食品販売が伸長したが、タイでの加工食品の数量が減少したことなどにより減収となった。

【第3四半期累計事業利益の状況】

豪州・ウルグアイ

豪州、ウルグアイ共に安定した販売価格を維持できたことに加え、生産・処理コストが改善したことにより、増益となった。

米州

北米での加工食品販売において利益を確保できたこと、米国・チリでの日本向け輸出原料調達価格が安定したことにより、増益となった。

アジア・欧州

タイの加工食品向け原料価格の安定、トルコでの鶏肉販売価格の高値推移により増益となった。

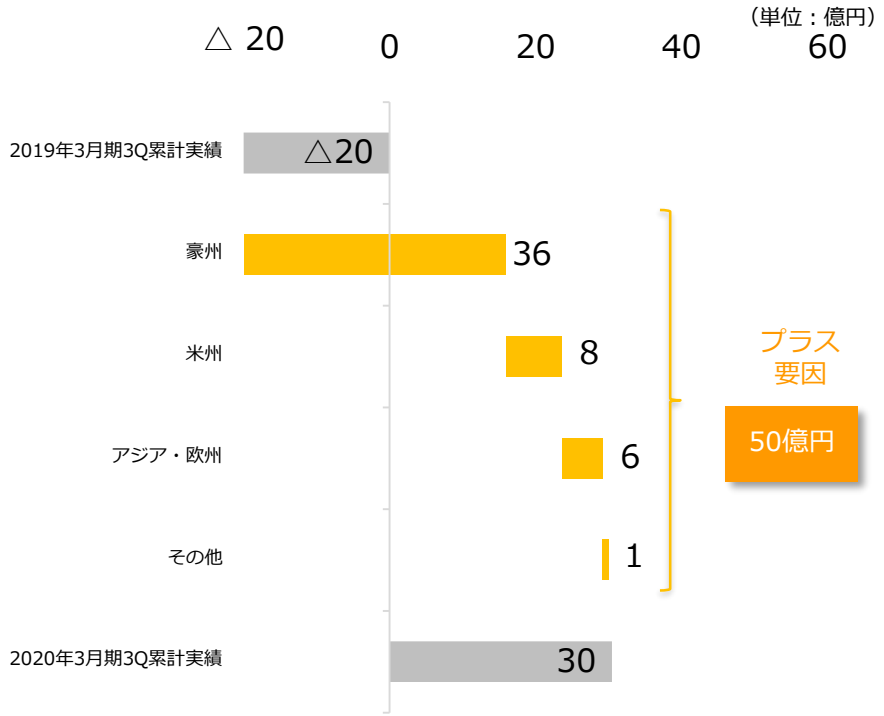
6. セグメント情報　海外事業本部②

【事業利益増減要因分析】

	2020.03月期				
	上期実績	3Q実績	3Q累計見込み	3Q累計実績	差異
豪州(ウルグアイ含む)	15億円	**22億円**	25億円	**36億円**	11億円
米州	5億円	**3億円**	7億円	**8億円**	0億円
アジア・欧州	8億円	**△2億円**	8億円	**6億円**	△2億円
その他	0億円	**1億円**	1億円	**1億円**	0億円
合計	28億円	**23億円**	41億円	**50億円**	10億円

※四捨五入表記のため、数値の和・差と合計が一致しない場合があります。

【第3四半期累計事業利益実績の増減要因グラフ】



●計画差異要因分析（第3四半期累計）

【豪州】　豪州の生体集荷が順調だったことに加え、豪州・ウルグアイ共に販売が好調だったことから計画を上回った。

【米州】　北米での加工食品販売における販促費の運用効果により、計画通りに進んだ。

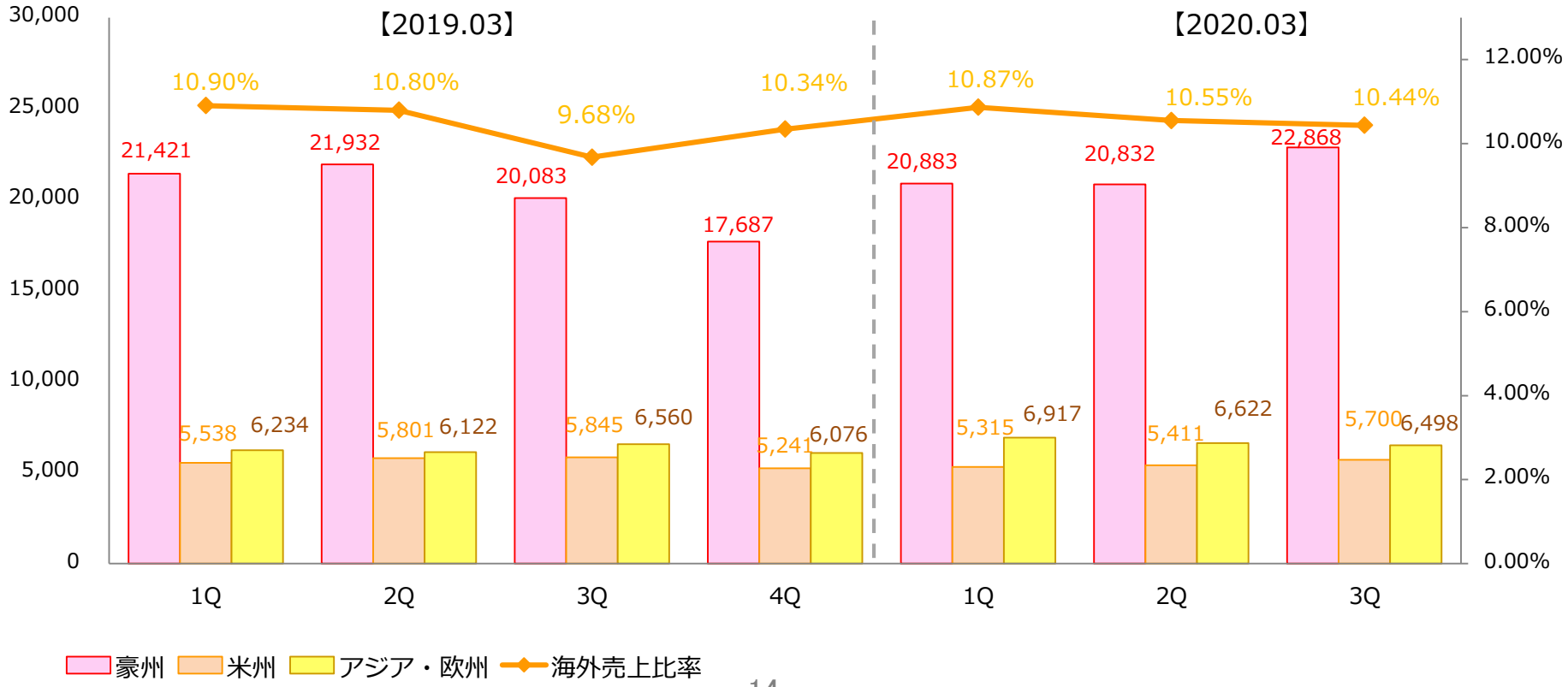
【アジア・欧州】　アセアンにおける加工食品製造の数量減少により、計画を下回った。

7. 海外　主要所在地別 外部顧客売上高実績

（単位：百万円）

	2019.03					2020.03		
	1Q	2Q	3Q	4Q	通期	1Q	2Q	3Q
豪州	21,421	21,932	20,083	17,687	81,123	20,883	20,832	22,868
米州	5,538	5,801	5,845	5,241	22,425	5,315	5,411	5,700
アジア・欧州	6,234	6,122	6,560	6,076	24,992	6,917	6,622	6,498
海外計	33,192	33,857	32,487	29,004	128,540	33,116	32,864	35,067
海外売上比率	10.90%	10.80%	9.68%	10.34%	10.42%	10.87%	10.55%	10.44%

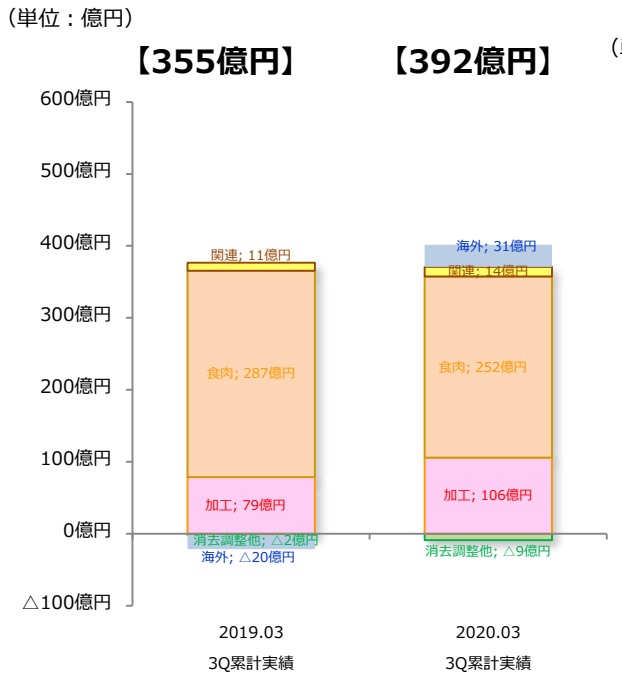
※売上金額は、外部顧客に対する売上高です。

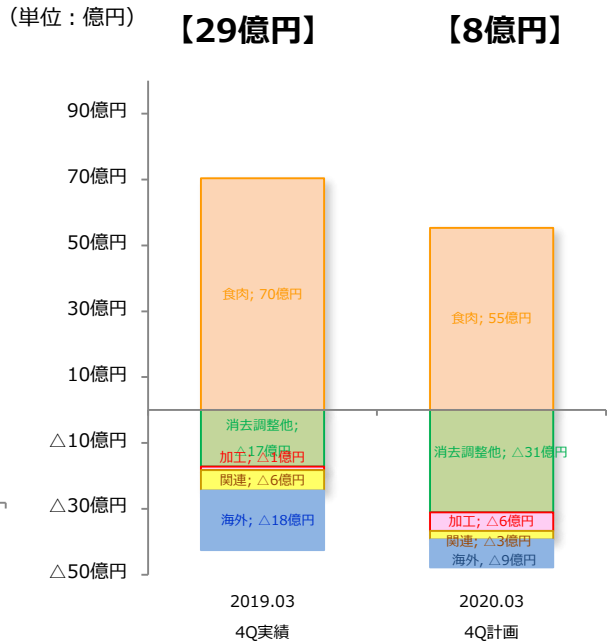


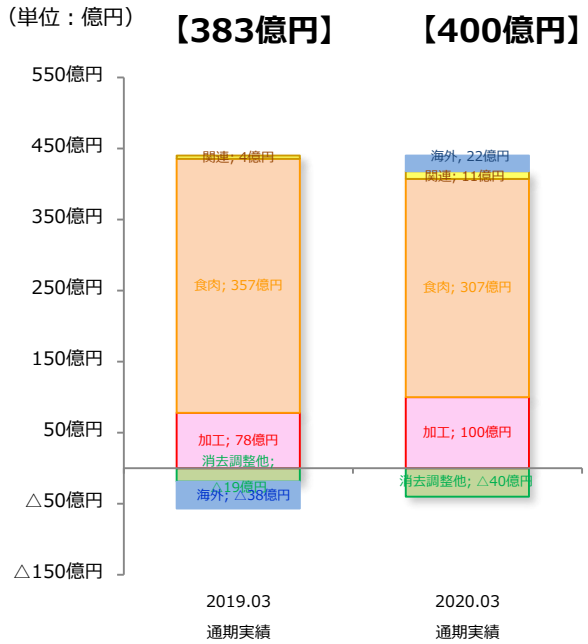
Ⅱ．2020年3月期　見通し

1. 2020年3月期　事業利益計画
2. 2020年3月期計画（加工事業本部）
3. 2020年3月期計画（食肉事業本部）
4. 2020年3月期計画（関連企業本部）
5. 2020年3月期計画（海外事業本部）

1. 2020年3月期　事業利益計画①







	2020.03 3Q累計			2020.03 4Q			2020.03 通期		
	2019.03 実績	実績	増減	2019.03 実績	見込み	増減	2019.03 実績	見込み	増減
加工事業本部	79億円	**106億円**	27億円	△1億円	**△6億円**	△5億円	78億円	**100億円**	22億円
食肉事業本部	287億円	**252億円**	△35億円	70億円	**55億円**	△15億円	357億円	**307億円**	△50億円
関連企業本部	11億円	**14億円**	3億円	△6億円	**△3億円**	4億円	4億円	**11億円**	7億円
海外事業本部	△20億円	**31億円**	50億円	△18億円	**△9億円**	9億円	△38億円	**22億円**	60億円
消去調整他	△2億円	**△9億円**	△7億円	△17億円	**△31億円**	△14億円	△19億円	**△40億円**	△21億円
内価値創造費用	△0億円	**△3億円**	△3億円	△0億円	**△4億円**	△4億円	△0億円	**△7億円**	△7億円
内球団損益(連結)	△1億円	**△3億円**	△2億円	△16億円	**△17億円**	△1億円	△17億円	**△20億円**	△3億円
内その他	△1億円	**△3億円**	△2億円	△1億円	**△10億円**	△9億円	△2億円	**△13億円**	△11億円
合計	355億円	**392億円**	38億円	29億円	**8億円**	△21億円	383億円	**400億円**	17億円

※四捨五入表記のため、数値の和・差と合計が一致しない場合があります。

1．2020年3月期　事業利益計画②

Nipponham Group
人輝く、食の未来

（単位：億円）

【2Q見込みとの差異】

※4Q、下期、通期見込みについては、第3四半期後に見直した計画になっています。

	2020.03 3Q			2020.03 4Q			2020.03 下期			2020.03 通期		
	2Q 計画	実績	差異	2Q 計画	見込み	差異	2Q 計画	見込み	差異	2Q 計画	見込み	差異
加工事業本部	49	**60**	11	△5	△**6**	△1	44	**54**	10	90	**100**	10
食肉事業本部	90	**105**	15	79	**55**	△24	169	**160**	△9	316	**307**	△9
関連企業本部	10	**11**	1	△0	△**3**	△2	10	**9**	△1	12	**11**	△1
海外事業本部	2	**12**	10	△5	△**9**	△4	△3	**3**	6	16	**22**	6
消去調整他	△21	△**13**	8	△17	△**31**	△14	△38	△**44**	△6	△34	△**40**	△6
(内)価値創造費用	△2	△1	1	△4	△4	△1	△6	△6	0	△7	△7	0
(内)球団損益	△17	△14	3	△15	△17	△2	△32	△31	1	△21	△20	1
(内)その他	△2	2	4	1	△10	△11	△1	△8	△7	△6	△13	△7
合計	130	**174**	44	52	**8**	△44	182	**182**	0	400	**400**	0

※四捨五入表記のため、数値の和・差と合計が一致しない場合があります。

1. 2020年3月期　事業利益計画③

Nipponham Group 人輝く、食の未来

【事業利益計画　増減要因分析】

○加工事業本部

（単位：億円）

加工事業本部	2Q計画との差異								
	4Q			下期			通期		
	2Q計画	見込み	差異	2Q計画	見込み	差異	2Q計画	見込み	差異
既存事業計	△4	△4	1	△5	4	9	11	19	9
外部要因	△4	△3	1	△10	△1	9	△3	6	9
（内訳）主原料価格	△4	△4	1	△7	△2	5	4	8	5
（内訳）副資材・燃料等	△0	1	1	△3	1	4	△7	△2	4
内部要因	0	△1	△1	6	5	△0	14	13	△0
（内訳）数量拡大	△1	△2	△1	△3	△2	1	△8	△7	1
（内訳）改善活動	1	1	△0	9	7	△1	22	21	△1
ベンダー、市販冷食、物流	2	2	△0	2	3	1	6	8	1
その他	△2	△3	△1	△4	△4	0	△5	△5	0
合計	△4	△5	△1	△6	4	10	12	22	10

○食肉事業本部

（単位：億円）

食肉事業本部	2Q計画との差異								
	4Q			下期			通期		
	2Q計画	見込み	差異	2Q計画	見込み	差異	2Q計画	見込み	差異
輸入食肉市況	3	△4	△7	1	△1	△3	△3	△5	△3
国産食肉市況	1	△3	△4	△10	△12	△2	△28	△29	△2
国内ファーム事業の変動	2	△8	△10	△2	△6	△4	△22	△26	△4
フード事業の伸長	4	2	△2	4	3	△1	1	0	△1
その他	△1	△2	△1	1	1	1	9	10	1
合計	9	△15	△24	△6	△15	△9	△41	△50	△9

○海外事業本部

（単位：億円）

海外事業本部	2Q計画との差異								
	4Q			下期			通期		
	2Q計画	見込み	差異	2Q計画	見込み	差異	2Q計画	見込み	差異
豪州(ウルグアイ含む)	7	7	0	18	29	11	32	43	11
米州	2	1	△ 1	4	4	△ 1	9	9	△ 1
アジア・欧州	4	2	△ 2	3	△ 0	△ 4	11	8	△ 4
その他	0	△ 1	△ 1	1	△ 0	△ 1	1	0	△ 1
合計	13	10	△ 4	26	32	6	54	60	6

【事業利益額見込み】

（単位：億円）

海外事業本部	事業利益額					
	4Q		下期		通期	
	2Q計画	見込み	2Q計画	見込み	2Q計画	見込み
豪州(ウルグアイ含む)	△ 0	△ 0	1	12	11	22
米州	△ 0	△ 1	1	1	6	5
アジア・欧州	△ 2	△ 4	△ 0	△ 4	10	6
その他	△ 2	△ 4	△ 5	△ 6	△ 10	△ 11
合計	△ 5	△ 9	△ 3	3	16	22

※四捨五入表記のため、数値の和・差と合計が一致しない場合があります。

2．2020年3月期計画（加工事業本部）

Nipponham Group
人輝く、食の未来

●チャネル別販売施策

①コンシューマ
引き続き主力ブランド商品の強化と新カテゴリー創造に取り組み、新商品の拡販と売場の拡大、単価改善により、収益改善を図る。

②業務用
人手不足対策やフードロス対策等、社会環境の変化に対応した提案とブランド商品の業務用展開により、適正利益を確保しながら、売上拡大に取り組む。

【（参考）チャネル別　売上高計画（対前年同期比）】

2020.03 通期計画		金額
ハム・ソーセージ	コンシューマ	103%
	業務用	96%
	合計	101%
デリ商品	コンシューマ	101%
	業務用	87%
	合計	95%

●主要コンシューマ商品群　販売施策

①ハム・ソーセージ
主力の「シャウエッセン」のエクステンションやWebを活用した広告展開等により、新規ユーザーの獲得と収益性の改善を図る。

②デリ商品
チルドピザにおいて大人向けの新たな食シーンの創造に取り組むと共に、利便性の高い新商品の拡販に取り組み、収益の拡大を図る。

【（参考）　主要コンシューマ商品群 売上高計画（対前年同期比）】

ハム・ソーセージ	2020.03 通期計画	デリ商品	2020.03 通期計画
ウインナー群	102%	チルドベーカリー群	102%
ロースハム群	109%	チルド惣菜群	97%
ベーコン群	102%	フライドチキン群	100%
焼豚群	90%	ﾊﾝﾊﾞｰｸﾞ・ﾐｰﾄﾎﾞｰﾙ群	107%
コンシューマ商品計	103%	コンシューマ商品計	101%

3．2020年3月期計画（食肉事業本部）

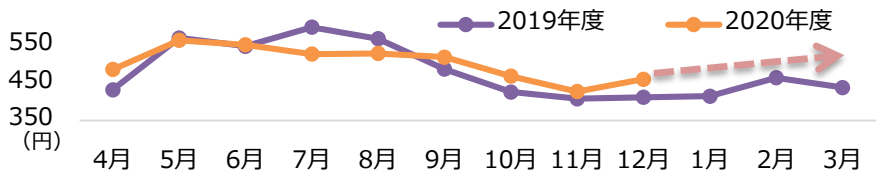
Nipponham Group
人輝く、食の未来

●国産食肉市況

・豚肉は生産性向上及び疾病対策を継続し、引き続き安定的な生産体制を構築していく。

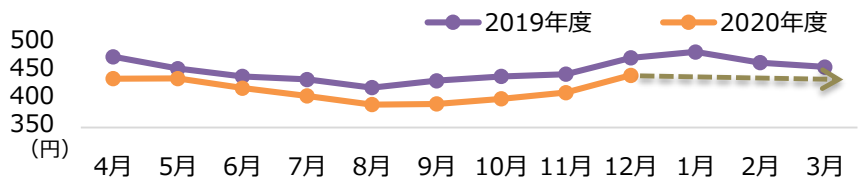
・鶏肉は旺盛な需要に対して、生産各社が供給力強化を図っている。
当社も増羽や生産性向上により安定的な供給を図る。

【豚肉相場】 豚３市場（東京・埼玉・横浜）「上」平均



・豚肉は前年相場を上回る見込み

【鶏肉相場】 鶏肉加重平均※食品産業新聞社畜産日報掲載分から単純平均単価



・鶏肉は期末にかけて前年水準近くまでの回復を見込む

●輸入食肉市況

・牛肉は米中貿易交渉による米国産牛肉の中国向け輸出解禁の可能性等、
今後の進展次第では相場上昇が見込まれ、注視する必要がある。

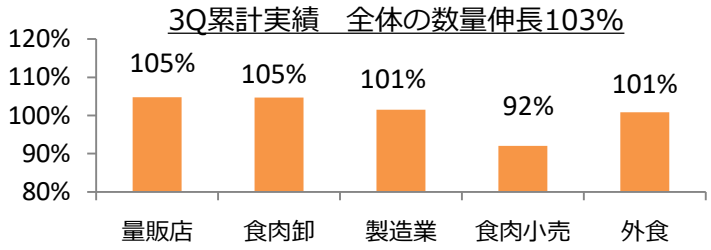
・豚肉はASFの影響による中国の豚肉生産数量の減少が影響し、高値が継続することを見込む。

・鶏肉はブラジル産に対する中国からの引き合いが弱まったことで、安定した相場推移を見込む。

●食肉販売（フード会社）

・主力ブランド食肉の提案や、春のキャンペーンを
活用することで、販売数量の拡大を図る。

・量販店や外食向けなど各顧客ニーズに合った、
商品提案・開発を進め、販売シェアの拡大に取り組む。



Nipponham Group
人輝く、食の未来

収益改善に向けた取り組み

●水産事業

【原料調達から加工・販売までの一貫した「水産インテグレーション」の確立】

・利益率の高い寿司種と自社工場製品の拡販。

・養殖サーモントラウト「MARINE RED」ブランドの販売強化。

・循環式陸上養殖システムを備えたタイの海老養殖事業の安定生産とノウハウの蓄積。

●乳製品事業

（チーズ）

【高付加価値商品の開発と販促による売上拡大】

・加工技術を活かした付加価値の高い業務用商品の開発を強化。

・コンシューマ商品は、宝幸アンバサダー田中雅美氏を活用した販促を実施。

・生産設備更新による生産能力の拡大と生産性向上。

（ヨーグルト）

【新カテゴリー商品の発売による新市場創出】

・日本初上陸の高たんぱく脂肪ゼロ「イーセイスキル」による新市場創出と商談強化。

・高崎工場の安定稼働による生産性の改善。

・主力商品の「バニラヨーグルト」の継続拡販。

5. 2020年3月期計画（海外事業本部）

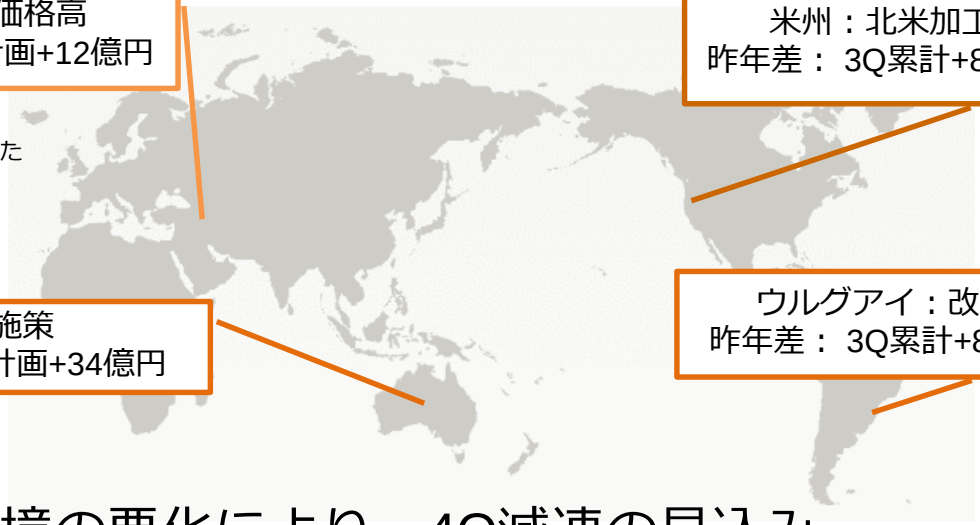
Nipponham Group 人輝く、食の未来

➢3Qまでは外部環境の追い風と内部改善の取り組みにより、大幅に収益向上

トルコ：生産性改善、販売価格高
昨年差：3Q累計+8億円、通期計画+12億円

上期より稼働開始した
新飼料工場

米州：北米加工食品の生産性改善
昨年差： 3Q累計+8億円、通期計画+9億円



豪州：生産性改善、商品施策
昨年差： 3Q累計+29億円、通期計画+34億円

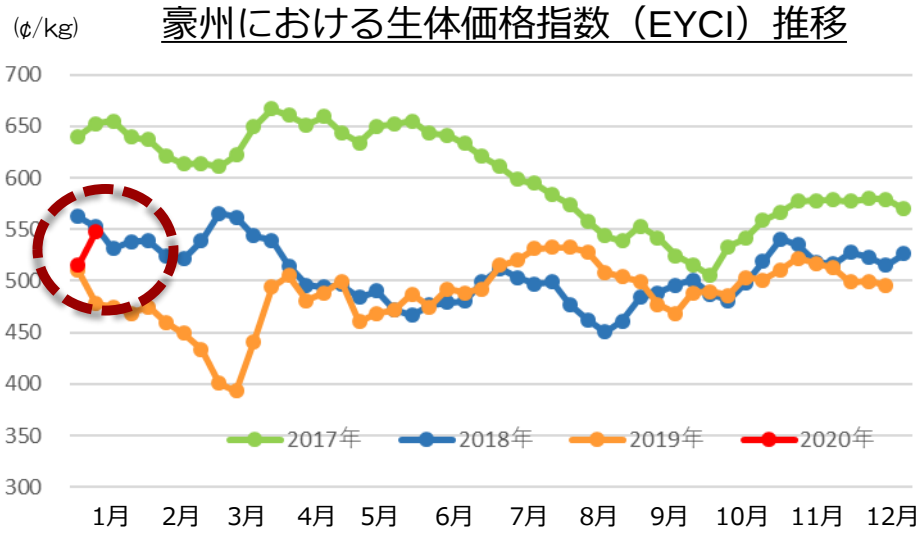
ウルグアイ：改善プロジェクト推進
昨年差： 3Q累計+8億円、通期計画+9億円

➢しかしながら外部環境の悪化により、4Q減速の見込み

■豪州の生体価格上昇
・記録的な干ばつによる早出し、大規模な森林火災の影響で出荷頭数減少見込み。生体価格の上昇が見込まれる。

■中国向け販売の減少
・旧正月明けの需要に不透明感。
・米中貿易交渉により、米国産牛肉・豚肉の輸出拡大の可能性。
・新型肺炎感染拡大による消費環境の変化に注意が必要。

豪州における生体価格指数（EYCI）推移



出典：MLA Webサイト

Ⅲ．2020年3月期　第3四半期財務データ

1．2020年3月期連結業績概要及び通期計画

2．連結貸借対照表の主な項目、設備投資額、減価償却費

1. 2020年3月期連結業績概要及び通期計画

Nipponham Group 人輝く、食の未来

＊前年比、数量伸長率は、対前年増減率で表示しております。

（単位：百万円、%）

		2019年3月期実績			2020年3月期実績及び計画								
		3Q累計 実績	4Q 実績	通期 実績	3Q累計 実績	前年比	数量 伸長率	4Q 見込み	前年比	数量 伸長率	通期 見込み	前年比	数量伸長率
①	売上高	953,761	280,419	1,234,180	952,306	△ 0.2	-	287,694	2.6	-	1,240,000	0.5	-
	ハム・ソーセージ	100,908	27,448	128,356	102,250	1.3	△ 0.2	28,250	2.9	2.1	130,500	1.7	0.3
	加工食品	177,391	56,264	233,655	175,102	△ 1.3	△ 3.4	55,198	△ 1.9	△ 3.9	230,300	△ 1.4	△ 3.5
	食肉	541,742	161,815	703,557	549,756	1.5	3.9	168,944	4.4	2.3	718,700	2.2	3.5
	牛肉	231,294	66,289	297,583	234,861	1.5	1.7	67,939	2.5	0.0	302,800	1.8	1.3
	豚肉	169,205	51,952	221,157	172,316	1.8	2.6	55,784	7.4	3.6	228,100	3.1	2.8
	鶏肉	120,597	40,224	160,821	125,544	4.1	8.2	41,956	4.3	2.8	167,500	4.2	6.8
	その他食肉	20,646	3,350	23,996	17,035	△ 17.5	△ 23.1	3,265	△ 2.5	△ 2.7	20,300	△ 15.4	△ 20.9
	水産	69,490	18,648	88,138	64,338	△ 7.4	△ 3.8	17,362	△ 6.9	△ 10.4	81,700	△ 7.3	△ 5.3
	乳製品	25,705	7,565	33,270	25,707	0.0	△ 1.4	7,893	4.3	3.0	33,600	1.0	△ 0.4
	その他	38,525	8,679	47,204	35,153	△ 8.8	-	10,047	15.8	-	45,200	△ 4.2	-
②	売上原価	794,563	239,014	1,033,577	788,663	△ 0.7							
	売上総利益	159,198	41,405	200,603	163,643	2.8							
	売上総利益率	16.7%	14.8%	16.3%	17.2%	-							
③	販売費及び一般管理費	125,337	43,001	168,338	122,860	△ 2.0							
	その他の収益・費用	2,319	△ 3,101	△ 782	△ 7,010	-		△ 4,190	-		△ 11,200	-	
	金融収益・費用	△ 1,965	△ 169	△ 2,134	△ 1,196	-		△ 604	-		△ 1,800	-	
	持分法による投資損益	469	449	918	823	75.5		177	-		1,000	8.9	
	税引前利益	34,684	△ 4,417	30,267	33,400	△ 3.7		△ 7,400	-		26,000	△ 14.1	
	法人所得税費用	10,788	462	11,250	9,364	△ 13.2		△ 1,564	-		7,800	△ 30.7	
	税率	31.1%	-	37.2%	28.0%	-		21.1%	-		30.0%	-	
	親会社の所有者に帰属する当期利益	24,046	△ 4,485	19,561	23,927	△ 0.5		△ 5,427	-		18,500	△ 5.4	
④	営業利益①-②-③	33,861	△ 1,596	32,265	40,783	20.4		△ 2,783	-		38,000	17.8	
⑤	為替差損益	△ 2,345	△ 720	△ 3,065	△ 1,645	-		-	-		-	-	
⑥	IFRSへの調整他	712	△ 3,693	△ 2,981	3,189	-		-	-		-	-	
	事業利益④-⑤-⑥	35,494	2,817	38,311	39,239	10.6		761	-		40,000	4.4	

2. 連結貸借対照表の主な項目、設備投資額、減価償却費

Nipponham Group 人輝く、食の未来

（単位：百万円、%）

	«連結貸借対照表»	2019年3月期 期末実績	2020年3月期 第3四半期実績	対前期末 増減率	対前期末 増減額
	資産合計	741,388	813,164	9.7	71,776
	現金及び現金同等物	48,108	54,391	13.1	6,283
	営業債権及びその他の債権	153,260	185,246	20.9	31,986
	棚卸資産	113,415	116,776	3.0	3,361
★①	有形固定資産	289,898	318,206	9.8	28,308
	その他の金融資産(非流動)	34,125	35,958	5.4	1,833
	繰延税金資産	28,004	25,153	△ 10.2	△ 2,851
	負債合計	336,030	387,785	15.4	51,755
	営業債務及びその他の債務	111,573	125,886	12.8	14,313
★②	有利子負債	147,009	196,196	33.5	49,187
	親会社の所有者に帰属する持分	401,014	416,379	3.8	15,365
	非支配持分	4,344	9,000	107.2	4,656
	資本合計	405,358	425,379	4.9	20,021

主な増減要因

★① **有形固定資産**　**リース会計基準の変更などで約283億円の増加。**

★② **有利子負債**　**リース会計基準の変更および短期借入金の増加などにより、約492億円の増加。**

（単位：百万円、%）

«設備投資額、減価償却費»	2019年3月期 3Q累計実績	2020年3月期			2020年3月期 通期計画
		3Q累計実績	対前年増減率	対前年増減額	
設備投資額	35,102	30,410	△ 13	△ 4,692	50,000
加工事業本部	6,933	8,048	16	1,115	13,000
食肉事業本部	16,023	8,373	△ 48	△ 7,650	14,000
関連企業本部	7,206	1,565	△ 78	△ 5,641	4,000
海外事業本部	4,000	4,668	17	668	6,800
その他設備	940	7,756	725	6,816	12,200
減価償却費	16,439	24,545	49	8,106	33,000

お問合せ先
〒141-6013　東京都品川区大崎2－1－1
ＴｈｉｎｋＰａｒｋ　Ｔｏｗｅｒ
日本ハム株式会社　広報ＩＲ部
電話：03-4555-8024
FAX：03-4555-8189

見通しに関する注意事項

この資料には、当社の将来についての計画や戦略、業績に関する見通しの記述が含まれています。
これらの記述は当社が現時点で把握可能な情報から判断した仮定及び所信に基づく見通しです。
また、経済環境、市場動向、為替レートなどの外部環境の影響があります。
従って、これら業績見通しのみに全面的に依拠することはお控え頂きますようお願い致します。
また、実際の業績は、さまざまな重要な要素により、これら業績見通しと異なる結果となりうることをご承知おき下さい。